

親鸞聖人そば喰いの御像

親鸞（1173～1263 年）は日本の宗教史において最も尊敬を集めている人物の一人である。彼は浄土真宗の創始者であり、この宗派は今でも日本で最も有力な宗派のひとつであり続けている。法住寺の親鸞像は、親鸞自身が彫ったものとされているが、興味深い逸話がある。親鸞がまだ若い修行僧だった頃のことだが、強力な信仰心に突き動かされ、100 日間にわたって、毎晩ひそかに外に出て、街を横切り、六角堂にお詣りをしていた。偉大な僧侶である親鸞は、この像を自らつくすることで、自分がいなくなったことを悟られないようにしたのだと言われている。不思議なことに、親鸞が食べることになっていたそばがなくなっており、この像が食べていたのだという。そこで、この像は「そばを食べる親鸞」と呼ばれるようになった。